

美術教育を通して「美しさ」を伝えたい☆ by 進

11月17日(木)、美術科の上原進先生が授業を公開しました(1年3組)。本時は、ダブルイメージボードの制作(図3)を目指して、グラデーションの配色を考え、実際に色を塗る技能を養うことがねらいです。



図1 授業はじめ「美しさ」にふれる

授業は5分程度のビデオ鑑賞から始まりました。生徒は、日本の歴史ある絵画の「美しさ」に出会うことで、心穏やかに、落ちついた雰囲気の中で、授業が開始されました(図1)。

進先生さすがだな！と感じたのが、生徒への声かけです。本時の活動を指示する場面では、**言葉を繰り返したり、抑揚をつけたりすることが上手くて、先生に注目しなくても、自然と声が耳に入ってくる感じが、とても新鮮でした。**

生徒は、すぐに自身の好きな色を選択し、配色計画を立て、「どの色を組み合わせたら良いのか、どうしたら流れるような配色ができるのか」を問いながらグラデーションを楽しんでいました(図2)。

授業終盤には、ICTを使ってクラス全員のグラデーションを共有する場面もあり、**教室からは「お～上等!」、「すごい、キレイ」などという感嘆の声が響いていました。**

なぜこの配色なのか?なぜこの色を塗ったのかを、代表生徒に工夫した点を説明してもらい、共有しても良かったかもしれません。進先生、ありがとうございました。



図2 楽しみながら作品づくり



図3 ダブルイメージボード

【 Kさんが工夫した点 】
 私は青と黄色が好きなので、この2つの色からグラデーションを考えた。白を境目に流れるように塗ることができた。

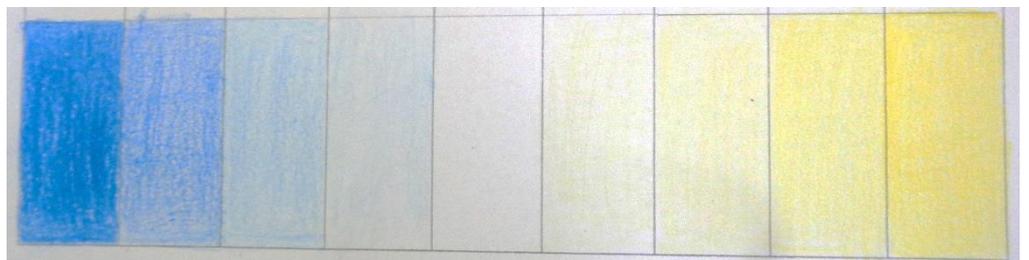


図4 Kさんの作品

美術では『なぜこの色なのか?なぜこの色を塗ったのか』を大切にしています。